



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

後藤文庫の古筆切データベースについて ……	1
尾張藩時代からの医学教育と医療の情報拠点、 医学部分館 ……	3
東海地区大学図書館協議会総会・研究集会報告	4
電子リソースを使いこなす！ ……	5
変わります、 ーラーニング・コモンズ第2期整備ー …	6
利用者から見た図書館 ……	8
本学教員著作物の寄贈リスト ……	10
大募集！図書館をよくする学生アイデアコンテスト ……	12

こひつぎれ 後藤文庫の古筆切データベースについて

塩 村 耕

本学文学部名誉教授、故・後藤重郎先生(1921～2006)の旧蔵書が、御遺族より本館に寄贈された。その中には、先生が最も専門とされた新古今和歌集をはじめとする和歌関係の版本・写本など古典籍約二百点、それからやはり新古今集を中心とする古筆切百十余点という貴重資料が含まれている。あからさまな言い方をすると、それらは市場価値に換算すればたいへんな金額となるはずで、まさに得難い篤志たることを銘記したい。

我々のなすべきことは、いただいた志を無にせぬよう、資料を社会の活用適切に供することである。まず古典籍については、既に本館ウェブサイトの「古典籍DB」すなわち、名大が世界に誇る(と誰も言ってくれないので私だけが声高に叫ぶのだが)「名大システム古典籍内容記述的データベース」に詳しい書誌データが公開されている。「文庫名」の箇所「後藤」と入力して絞り込むと、全貌がほぼ把握されよう(わずかに未完成の部分を残しているが、追々完成させる予定)。併せて古筆切についても、画像と内容を把握出来る新たなデータベースを準備した。間もなく公開される予定の后者について以下に紹介しよう。

古筆切とは日本独特の文学資料で、主に室町時代以前に成立した古典籍の断簡のことである。古来、日本人には古人の筆蹟をひどく愛好するという癖があり、いきおい古い書物を手に

入れたい人が多かった。そのため古書の価格が高騰し、書物を完全な姿で所有することが難しくなり、数行ずつに切り刻んで分割した。その背景には安土桃山時代以来の茶道の隆盛があり、茶席の掛け物として古筆切はもてはやされ、わずかな切れでさえ大金で取引されるようになった。

それはいわば書物の破壊という最も忌まわしい行為ではあるが、他方で、全姿は損なわれたものの、危険の分散というか、部分の保存にはつながり、さまざまな貴重資料の断片が今に伝えられることとなった。そもそも、古い筆蹟を珍重する精神性、また文化財すなわち文化を一部の貴人が独占せず、みんなで共有しようという風土は、日本人の美質とってよい。



図版①

ただ問題は、断簡であるために、完本ならば奥書や書写識語などがあって、筆写者や年代など、さまざまな成立情報を得られたものが、わからなくなってしまったことだ。また大金で取引されることの弊害、つまり偽物の流通も行われる。そこで登場するのが「古筆見」と呼ばれた鑑定家たちである。

有名なのは平沢了佐という人。過激な古筆愛好家であった豊臣秀次にその力量を認められ、そのものずばり「古筆」という家名と「琴山」の印章を下賜された。以後、古筆家の本家・分家の代々とその門葉たちによる古筆の鑑定が、江戸時代には盛んに行われ、古筆切には彼らが出した鑑定書である「極め札」が添えられ流通する。極め札には筆者の名、切れの書き出しが記され、「極め印」という印章が捺される。図版①は江戸時代中期の享保15年(1730)に刊行された一枚刷で、古今の古筆見たちが用いた極め印の印譜である(塩村蔵)。この刷り物には刊年記を天明8年(1788)に改めた後版もあり、さらに同種の印譜は幕末まで続出し、愛好者の数が常に多かったことを物語っている。

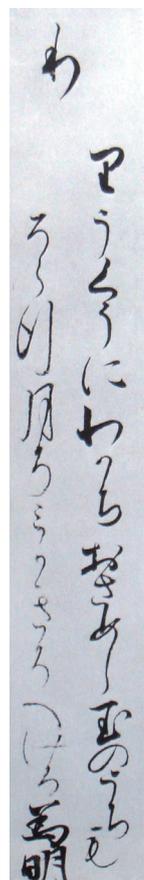
今回のDBには、古筆切本紙および極め札について、画像、本文翻字、その他の情報が一覧できるように配慮されている。「その他の情報」には、歌集名、歌番号のほか、極め札を出した古筆見の名、彼らが鑑定した伝承筆者の略伝、それからその鑑定が適切なものであるのか吟味すべく、関連する古筆切など他の筆蹟資料との比較についても略記している。この最後に記した筆蹟比較は、いわば江戸期の古筆見たちに挑

戦しようという不遜な行為で、主観に渉る部分も大きく、ちょっと心臓が強くないと出来ないことなのだが、自分たちの勉強かたがた、あくまでも参考資料として付記することとした。

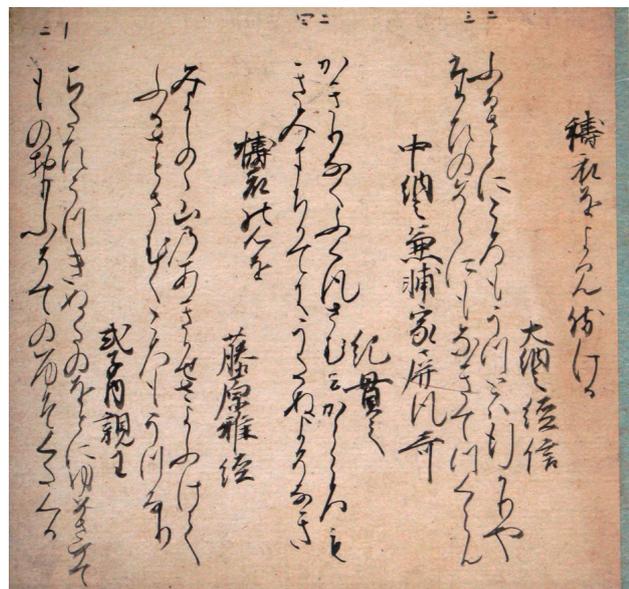
その過程で思い知ったのが、江戸期の古筆見たちの恐るべき実力である。図版②は新古今集の切れで、古筆了任(分家二代)の極め札により、鎌倉南北朝時代の公家、二条為明(1295~1364)と極められる。図版③は前田家尊経閣文庫現蔵、国宝として名高い『宝積経要品』紙背短冊一すなわち足利直義らが康永3年(1344)高野山に奉納した経の折本の紙背に貼られた当代の歌よみたちの短冊一の中にある、紛れのない為明自筆短冊で、たしかに同筆と認められる。もちろん古筆家の手もとには確かな拠り所となる資料群があったのだろうが、それにしてもよい仕事をしている。

今回の基礎データ作りには、学生・院生たちが積極的に参加してくれた。作業は、各自が担当する古筆切について、まず歌集名と歌番号、歌形の異同を調べる。次に筆蹟を丁寧に模写して、どの運筆に特徴が見られるのかを把握する。次に膨大にある古筆手鑑類の複製など、古筆蹟の写真資料にあたり比較するという手順だ。切れとはいえ、数百年前の古典籍の現物が放つオーラは強烈で、全員が異様な熱心さをもって筆蹟の解明に取り組んでくれた。世にこれほど充実した国文学概論の講義もあるまい。全て古書・古人が教えてくれる。図書館や文庫が教育の場としても重要である所以である。

このような画像とテキストを共有したDBは、筆蹟資料の比較研究に大きな威力を発揮するはずで、今後各地の所蔵先でも同様の公開が進められることが期待される。ただ、その場合でも原資料に即した研究が重要であることは言うまでもない。神秘主義者と思われる心外なのだが、古書を通して古人の発する霊力というのはたしかにあり、それはコンピュータ画像や活字本を通しては得られない。



図版③



図版②



電子リソースを使いこなす！

－秋季講習会のお知らせ－

中央図書館では例年、春と秋に講習会を開催しています。

名古屋大学では図書や雑誌の資料約290万冊の他、電子ジャーナル、電子ブック、データベース等、たくさんの電子リソースが利用できます。秋の講習会は、特にこれらの電子リソースを使いこなす講習会を中心に開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

 **初級～中級**：資料の探し方、電子リソース活用の基本を学びます。

テーマ	内容	日程	所要時間
資料探索法 (講義+実習)	図書館で本を探し、入手する方法を概説し、OPAC検索(名古屋大学蔵書検索)を行います。	10/21	60分
日本語論文の探し方 (講義+実習)	日本語で書かれた学術論文の探し方を、実習しながら習得します。	10/23, 28	60分
電子ブック入門 (講義+実習)	電子ブックを活用して調べものをする方法を紹介し ます。	10/30, 11/4	60分
電子ジャーナル入門 (講義+実習)	電子ジャーナル(主に洋雑誌)について概説します。	11/6, 11	60分

 **中級～上級**：データベース提供元から講師を招き、ツールごとの詳しい使い方を学びます。

テーマ	内容	日程	所要時間
データベース EBSCOhost講習会 (講義+実習)	EBSCOhost(エブスコホスト)は数多くのデータベースを提供するプラットフォームです。検索方法を解説し、実習しながら検索のコツを紹介し ます。	11/18	90分
欧文電子ジャーナル 活用法-ProQuest (講義+実習)	全分野を対象とした総合データベースを利用して、電子ジャーナルを紹介し、実習しながら活用法を身につ けます。新聞、学位論文等も含まれます。	11/20	90分
新聞記事を探そう！ －日経テレコン21－ (講義+実習)	「日本経済新聞」など日経四紙の全文検索によりビジネス社会の話題や企業の動向を知ることができる情報源、日経テレコン21のほか、名古屋大学で利用できる新聞記事データベースの活用法を紹介し ます。	11/13	90分

 **オーダーメイド講習会**：ご希望の日時・内容で講習会を開催します。

10月～12月の期間、5名以上のグループでお申し込みください。

- 講義の1コマとして…授業担当の先生から
- 研究室・ゼミ単位で…大学院生・学部生のグループで
- 友人どうしで…講習会の日程が合わない、レポートに活用したい など

メニューは秋季講習会とほぼ同じですが、それ以外にも皆様のご希望におこたえします。扱うテーマやデータベースなど、ご要望をお知らせください。

秋季講習会の詳細・お申込・お問合せ：

図書館Webサイトトップページ>ガイダンス・講習会
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/guide/literacy/guidance.html>

(参考調査掛)

変わります、 —ラーニング・commons 第2期整備—

中央図書館2階北側エリアが変わります！
これまでとレイアウト変え、多様な学習スタイルをサポートする
場所へと大きくシフトします。

新聞コーナー

新着外国新聞、国内新聞が西側エリアに移動します。

多目的ラーニングエリア

グループラーニングエリアと同様、メディア教育システムのPCと、持ち込みPCで無線LANを利用したり、資料も広げられるスペースのあるデスクを設置。レポート作成などいろいろな利用の仕方ができるミニオフィスのような雰囲気スペースです。

参考図書

新着学術雑誌 学内刊行物

新着学術雑誌等が中央エリアから西側エリアに移動します。

百科事典

AVエリア

AVブース、海外衛星放送（世界の窓）が3階から2階旧新着雑誌エリアに移動してきます。AVブースは2人用を新設し、AV資料もこのエリア周辺に集中配置します。



11月中旬まで整備工事のため閉鎖しています。
ご不便をおかけしますがご了承ください。

総合サポートカウンター

ITサポートやライティングサポート、学習支援、ピアサポートなどのサポートメニューを用意。
このエリアの「？」はまずはここに訊いてみて。

セミナールームA

講習会や研究発表、ゼミ、勉強会、プレゼンテーションの練習などにご利用ください（最大24名+講師用1）。講習会等の予約のないときは、自由にPCやCALLシステム（語学学習システム）が使えます。

相談コーナー

学生相談室の出張相談スペース。
ピアサポーターが相談を受け付けます。

ライティングサポートエリア

論文やレポートの作成など、2人で相談しながら作業のできるワーキングデスクを設置。文書作成ソフト、グラフィックソフトの使えるPCを用意しています。
サポートスタッフの支援も活用して、成果をあげましょう。

図書館入

《利用者から見た図書館》

図書室の思い出

南 出 真

京都の寺町通りに三密堂という古本屋がある。店先に「読書は衣食住の次に大切」という様な言葉が掲げられていた。中学生の頃、その店主に私は「勉強に励め」と目と背中で諭され、しばしば本を頂いた。読めないような難しい本ばかり貰ってしまったような気がするが、勉強というのは教科書のみを見ること、読むことのみではないことを教わった気がする。佛縁によって勉強の手助けを頂いたのに、怠け者の私はあまり学校の先生の言うことを聞かず成績は芳しくなかった。それで母は怒り出し、誠心院の近くにある川端洋服店の空き部屋で勉強することになってしまった。先生は従姉の麻由子姉さんで空手の達人である。逆らうことは出来ない。勉強はしたくないが恐ろしいので、好きな数学を教えてくださいにしました。「英語はええのか」と何度か聞かれたが「数学だけでいい」と答えた。麻由子姉さんの苦勞のお陰で、京都山科の毘沙門堂の近くの府立洛東高校に進学できた。そこには立派な図書室があり、素敵な司書がおられたので図書室通いをした。どの様に立派かと言うと、種も仕掛けもない鶯張りの床で、本棚も全て木製で歴史を感じさせる色であった。大きな木の机もあった。その雰囲気だけで「勉強してるなあ」と酔ってしまうのである。そこでお化けの本や植物の本、英語の勉強の仕方、数学者の伝記等を読んだ。図書室のある校舎は桜、紅葉、その他諸々の緑、琵琶湖疏水や美しい山々を借景にしていたが（余りにも美しいので勉強に身が入らない！）、天然鶯張りの為、建直しとなり図書室は運動場に建てられたプレハブに移動して、その後、新校舎の片隅に追いやられてしまった（螢舞う川の近くのいい所だったような気がする）。場所が変わろうとも三密堂店主の教えがいつまでも心にあり図書室通いを続けた。そして、学校嫌いの勉強好き、語学の達人、清浄の男、自学自習の粘菌学者南方熊楠の伝記に出会い何度も読んだ（例えば、「南方熊楠－森羅万象を見つめた少年－」飯倉照平、岩波ジュニア新書、1996年とか「縛

られた巨人 南方熊楠の生涯」神坂次郎、新潮文庫 1991年とか、「南方熊楠」鶴見和子、講談社学術文庫、1981年など等）。幼き頃に毘沙門堂の山や川で遊び、その近くの高校で勉強している私は、自称毘沙門天の化身（時には、自称金粟如来）の南方熊楠に親近感のようなものを覚えた。若き熊楠先生は日本人がバカにされていた明治時代に大英博物館での図書閲覧を正式に認められ、閲覧室で独り黙々と本を次から次へとノートに書き写していったという。「新潮日本文学アルバム 58 南方熊楠」（新潮社、1995年）の85ページに彼の硯の写真がある。それは深くえぐれていて溝が二つあるのである。高校生の私は「これがほんまもんの勉強や！」と思った。研究は死ぬ覚悟でしないとだめだと思った。同時に図書館で勉強することの重要性を認識した。しかし、生まれつき怠け者の私は決死の覚悟であまり勉強せずにだらだらと時間を過ごしてしまった。大学に入り過去の行いを反省して数学の勉強に励んだ。すると、多少成果はあったようで修士課程から名古屋大学に通うようになった。院生室を頂いたので、その机で勉強や研究に励んだ。高校生の頃に、大英博物館で勉強する南方先生の姿を思い浮かべながら勉強したことなどすっかり忘れていた。博士課程2年生の時、後輩の宇治川君と沖中君が数理科学図書室で夜遅くまで勉強しているところに遭遇した。その瞬間「少年老い易く学成り難し」と高校時代に数学の先生に言われた事を思い出した。また、実際に見たことはないのに大英博物館で写本している自分と同じ年頃の南方熊楠の姿が見えたような気がした。そして「やらなあかん！ 図書室で俺は勉強しなあかん！」と思った。当時の司書の谷川さんに「明日から閲覧室で勉強します」と宣言した。熊楠さんには到底敵わないけど、形だけでも真似ようと図書室通いを始めた。閲覧室にある一番大きい机を陣取り、ノートを広げる。論文を写したり、研究をした。勉強に詰まると書架に本を取りに行く。そこは数学の研究成果が記され

た本の海である。難度海である。その海に漂流しながら、学位論文に挑んだ。段々凶々しくなり、教員閲覧室を使わせて頂き、大きい机いっぱい本、論文、計算用紙をちらかして勉強した。夕方になると赤い夕陽が差してくる。いい気持ちだなあと思っていると「閉館時間過ぎてま

す」とよく言われた。随分迷惑な図書館利用者であった。この場を借りて数理科学図書館の皆様にお詫び申し上げます。

(みなみで・まこと

多元数理科学研究科 学振特別研究員)

《利用者から見た図書館》

図書館にひきつけられた自分

村西周平

自分は今年に入ってから、図書館のバイトを始めた。これまで図書館を訪れる頻度は少なかったと思う。これとって図書館が好きだから、といった理由ではじめたのではなく、これまで図書館を避けてきたためにバイトを始めようと思った。学部生の頃、図書館に所蔵されている本の中で、自分にとって興味がある本を探すさいに、検索をする方法を学んだ気がするが、全く生かすことが出来なかった。ようは忘れてしまった。研究室に所属するようになって、論文やら雑誌を読む必要が出てきた。簡単な検索の方法は研究室でお世話になっている先輩方に改めて教わったが、自分が必要としている図書に達するには時間がかかってしまう。時には、たどりつくことができなかった。つまらない内容の論文ばかりがひっかかり、何しているのだろうかと思うことがいくらかみられた。検索技術というのか分からないが、本を探すのが苦手だったので、これまで図書館にはなかなか訪れなかった。人見知りをするのもあるが。しかし、さすがに院生にもなって、まともな論文を読めない、というのはさすがにまずい。という経緯や、今年度はなぜか図書館のバイトの募集はあるが、なかなか決まらない。しかも、当時の生命農学図書室の係長の苗字が鈴木。お世話になっている先輩の苗字も鈴木。ということもあり、バイトを始めた。

バイトを始めてみると、教わるが多かった。図書を借りに来る学生に対して、どの図書館に探している本が置かれているのか、どの場所にどの図書が置かれているのか、雑誌に関しては、どの年代から置かれ、現在も継続的に購

入や寄贈され続けているのかを説明するためにも、自分がちゃんと把握していないと務まらない。また、探している雑誌等は電子ジャーナル上に掲載されている場合もあるので、その場で判断し、図書を借りに来る学生に対して、何が最も利用しやすいのかを考える必要があった。本を借りるという行為は、一方向的ではなく、両方向的に混じりあっていくものだと感じた。

図書を探すことに慣れると、自然と図書を検索する頻度が多くなった。自分は論文を検索する頻度が多いのだが、前述したように、学部生のころはまともな論文に行き着くことがほとんどなかった。それで検索が嫌いになった。自分が読みたい論文と類似した内容の論文にどうしてたどり着けなかったのか不思議だった。しかし、今になって思うのだが、その理由は検索する範囲が大きかったためだと思う。検索に慣れると、狭い範囲で検索を行っている。一度読んだ論文が引用している論文、その論文が引用されている論文、雑誌に関してはインパクトファクターを目安に雑誌を固定させて検索するようになった。そうすることによって、自分が興味を持つ分野に焦点を当てたために、得られる知識の幅が狭まるかもしれないが、自分の研究に関する知識は広がっていく。自分に適した検索を見つけることによって、検索が好きになった。

どんなことでもある程度の知識があることによって、興味の持ちようも変わってくる。しかし、その知識を得るさいの第一歩は難しいと思う。知識を得るには、自分で調べる。または、

所 属	寄 贈 者 名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配 置 場 所
工 学 研 究 科	新 美 智 秀	センシング工学 / 新美智秀著 -- 東京：コロナ社, 1992.10	11677569	中央学 3F 501.22/ N
生命農学研究科	小 田 裕 昭	時間栄養学：時計遺伝子と食事のリズム / 香川靖雄編著；柴田重信 [ほか] 著 -- 東京：女子栄養大学出版部, 2009.2	11676545	中央学 3F 498.56/Ka
生命農学研究科	海 老 原 史 樹 文	光周性の分子生物学 / 海老原史樹文, 井澤毅編 -- 東京：シュプリンガー・ジャパン, 2009.7	11677580	中央学 3F 463.9/E
国際開発研究科	中 西 久 枝	国際関係のなかの子ども / 初瀬龍平, 松田 哲, 戸田真紀子編著 -- 東京：御茶の水書房, 2009.7	11677578	中央学 3F 369.4/H
名 誉 教 授	柴 田 叡 弼	大台ヶ原の自然誌：森の中のシカをめぐる生物間相互作用 / 柴田叡弼, 日野輝明編著 -- 秦野：東海大学出版会, 2009.7	11677579	中央学 3F 468/Si
エ コ ト ピ ア	古 賀 一 男	視覚系の構造と初期機能 / 内川恵二総編集；篠森敬三編集 -- 東京：朝倉書店, 2007.9	11677577	中央学 3F 141.21/Si
エ コ ト ピ ア	古 賀 一 男	眼球運動実験ミニ・ハンドブック / 古賀一男著 -- 川崎：労働科学研究所出版部, 1998.10	11677576	中央学 3F 491.374/Ko
エ コ ト ピ ア	古 賀 一 男	眼球運動の実験心理学 / 苧阪良二, 中溝幸夫, 古賀一男編 -- 名古屋：名古屋大学出版会, 1993.5	11677575	中央学 3F 141.21/O
エ コ ト ピ ア	古 賀 一 男	知覚・認知・感情 / 佐藤隆夫編著 -- 東京：ブレーン出版, 1999.6	11677574	中央学 3F 141.8/Y/1
エ コ ト ピ ア	林 希 一 郎	生物遺伝資源アクセスと利益配分に関する理論と実際：新医薬品開発を例に / 林希一郎著 -- 岡山：大学教育出版, 2007.1	11677572	中央学 3F 467.2/H
エ コ ト ピ ア	林 希 一 郎	環境アセスメントの最新知識 / 環境影響評価制度研究会編集 -- 東京：ぎょうせい, 2006.10	11677573	中央学 3F 519.15/Ka
エ コ ト ピ ア	林 希 一 郎	EU の公共政策 / 和気洋子, 伊藤規子編著 -- 東京：慶應義塾大学出版会, 2006.5	11677571	中央学 3F 332.3/W
エ コ ト ピ ア	林 希 一 郎	温暖化対策と経済成長の制度設計 / 横山 彰, 財務省財務総合政策研究所編 -- 東京：勁草書房, 2008.1	11677570	中央学 3F 519.04/Y
情報文化研究科	大 下 大 圓	癒し癒されるスピリチュアルケア：医療・福祉・教育に活かす仏教の心 / 大下大圓著 -- 東京：医学書院, 2005.3	11669234	中央学 3F 490.16/O
生命農学研究科	田 中 隆 文	環境問題はイメージでは解決しない。：ステレオタイプに惑わされないための水土保全学講義ノート / 田中隆文著 -- 東京：星雲社 (発売), 2009.8	11679307	中央学 3F 519.8/Ta

